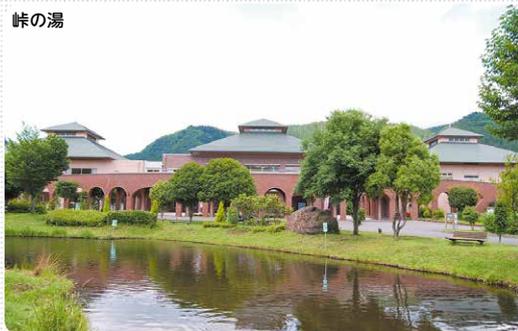




壺風呂がある洋風露天風呂

鉄道のまちに湧く 「碓氷峠の森公園交流館 峠の湯」



峠の湯

服するため、約10キロの区間に26のトンネル、18もの橋をつくる大工事が行われ、開通したのは明治26年のことです。

急勾配を越えるには列車に補助機関車を連結する必要があり、峠の麓にある横川駅には、その作業を行う機関車の車両基地が置かれ、多くの機関士が働いていました。横川は鉄道関係者でにぎわい、平成9年、長野新幹線(現・北陸新幹線)の開通にともない横川-軽井沢駅間が廃止されるまで、鉄道のまちとして栄えます。

そんな鉄道の記憶をとどめるまちにも、温泉があります。「碓氷峠の森公園交流館 峠の湯」は、平成11年、廃線後のまちを活性化する目的で開かれた日帰り温泉施設。



大浴場「霧積」



トロッコ列車



廃線ウォーク

横川駅は、安中市の山あいにあるJR信越本線の終着駅。かつてはその先に長野県軽井沢駅へと至る線路が続き、碓氷線とよばれていました。碓氷峠が立ちのぼる横川には、これだけあり、これを克服するために、約10キロの区間に26のトンネル、18もの橋をつくる大工事が行われ、開通したのは明治26年のことです。

レンガ造りのアーチが美しい建物は、国の重要文化財にも指定される碓氷線の鉄道橋、通称「めがね橋」をイメージしてつくられたものです。自慢は何といっても、露天風呂。「見わたす限り妙義山や霧積山の山並みが広がり、開放感があつて気持ちいいですよ」と支配人の大塚さん。陶製の壺風呂で湯を独り占めし、山風に吹かれながらの湯浴みも格別です。湯は、肌をなめらかにする美肌の湯。発汗を抑える効果もあり、爽やかな湯上がり感です。

温泉とあわせて、新しい観光地として生まれ変わった碓氷線を体験してみませんか？安中市観光機構が主催する「廃線ウォーク」は、普段は立ち入りできない信越本線新線の廃線跡を、ガイドの案内で歩ける人気のイベント。毎月開催され、秋は紅葉、冬は雪景色と、四季折々の鉄道遺産を楽しめるのも魅力です。碓氷線の線路を利用したトロッコ列車も運行し、鉄道テーマパーク「碓氷峠鉄道文化むら」の「ぶんかむら駅」から、峠の湯がある「とうげのゆ駅」まで、急勾配の碓氷線を旅するのもおすすめです。

編集だより

横川駅のすぐそばに見つけたお店。三世代で切り盛りする、手づくりのわさび漬屋さんです。原料のワサビは地元清流で自家栽培し、足りない分は国内産を取り寄せているそう。注文するとその場で、朗らかな奥さんがオリジナルの丸缶に詰めてくれました。黒糖羊羹も人気の逸品です。



わさび屋
住所…安中市松井田町横川405
営業時間…8:30~17:00
定休日…無休。臨時休業あり
TEL…027-395-2323



碓氷峠の森公園交流館 峠の湯
住所：安中市松井田町坂本1222
営業時間：10:00~21:00
(入館は20:30まで)
TEL：027-380-4000
トロッコ列車の運行は3月~11月の土・日・祝

宅配ではお届けしている全てのカタログを回収しリサイクルしています。ご不要の場合は、担当者へ、担当者へ渡すか配器材に入れてお戻しください。

※掲載した店舗・施設は、定休日以外に臨時休業となる場合もあるので、ご了承ください。
※一部取材先より画像をお借りしています。